

日本生命倫理学会 第 20 回年次大会

プログラム

大会テーマ

「医学・医療と生命倫理」

会 期：2008 年 11 月 29 日(土)・30 日(日)

会 場：九州大学医学部百年講堂

〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1

大会長：笹栗俊之（九州大学大学院 医学研究院）

日本生命倫理学会

大会長 挨拶

笹栗 俊之（九州大学）

医学・生命科学の進歩は目覚ましく、医療の技術的側面は今後ますます進歩すると見込まれます。医学や生命科学は、人間の幸福と地球上の生命の繁栄を目的とした学問であり、本来、発展するまま任せておいてもよいはずのものです。しかし現実とは違っていました。20世紀以来の歴史は、生命に幸福をもたらすはずの医学・医療が、逆説的に生命を脅かすこともあるということを示す事例によって示してきました。

一方、科学技術をコントロールし、自然科学の進むべき方向を指南すべき倫理学や哲学のような人文科学的研究は、「不採算」ゆえにとすれば軽視されるきらいがあります。しかし、世界に対し日本が指導的な役割を果たそうとするならば、医療技術の開発に熱心なだけでなく、医学・医療の哲学、倫理、そして「医の文化」の醸成にしっかり取り組み、技術的進歩とのバランスをとらなければなりません。

以上のような観点から、今大会は「医学・医療と生命倫理」を統一テーマとして掲げ、医学・生命科学研究、先端医療、および医療の現場における倫理的問題を重視し、中でも医学研究倫理に焦点を当てた特徴的な大会にしようと考えます。また、抽象的議論に終始することなく、理念よりも実践を重視し、21世紀に生命倫理学が果たすべき役割を具体的に提案できる大会にしたいと思えます。

今大会で医学研究倫理に焦点を当てたい理由は、第一に、第二次世界大戦中の非人道的人体実験（いわゆる「九大生体解剖事件」もそのひとつ）への反省から生まれた医学研究倫理は、生命倫理の原点とも言えますが、近年の大会ではあまり積極的に取り上げられてこなかったこと。第二に、臨床医学研究のみならず、基礎生命科学研究が潜在的に有する生命や社会への脅威が極めて大きくなりつつあり、実際的な対応が迫られていることです。

今大会により、人間の幸福と生命の繁栄をもたらすために生命倫理が果たすべき役割を問い直し、特に医学研究倫理に関する研究と教育の重要性を主張したいと思っております。

最後になりましたが、これまで本学会に特別貢献してきたわけではない私のような者に大会をお任せいただいた学会理事の方々、年次大会の企画に当たって数々のご指導を賜った実行委員の方々、また、学会準備の膨大な作業をお引き受けいただいた事務局の方々に、心より厚く御礼申し上げます。

プログラム

11月29日(土)

A会場(大ホール)

9:00- 9:10 開会挨拶

9:10-10:40 公募シンポジウム1

S1 医療現場での宗教者の存在とその言説の有効性

オーガナイザー：金子 昭(天理大学おやさと研究所)

S1-1 キリスト教系病院における牧会カウンセリングの現状と課題

—日本バプテスト病院における病院チャプレンの働きを通して—

浜本京子(NCC 宗教研究所・日本バプテスト病院)

S1-2 仏教者によるビハーラ活動 —心のケア・ボランティアの実践を通して—

佐藤雅彦(浄土宗総合研究所・大正大学)

S1-3 佼成病院緩和ケア・ビハーラ病棟

—スピリチュアルケアワーカーのメンバーとしての活動より—

浦崎雅代(中央学術研究所)

S1-4 医療におけるスピリチュアルケアの意味 —医師・教育者・宗教者としての立場から—

加藤眞三(大本教学研鑽所・慶応義塾大学)

10:50-12:20 公募シンポジウム2

S2 優生学における科学の役割

オーガナイザー：山崎喜代子(西南学院大学)

S2-1 社会ダーウィニズムと優生学 —フランスの事例

北垣 徹(西南学院大学)

S2-2 米国優生学における科学の役割

カレン・シャフナー(西南学院大学)

S2-3 何のための生命倫理研究か —21世紀におけるゲノム研究と優生学

米本昌平(東京大学先端科学技術研究センター)

13:20-14:20 特別講演(B,C,D会場で同時中継)

L1 いわゆる「九大生体解剖事件」の真相と歴史的教訓

東野利夫(医療法人愛成会 東野産婦人科 会長)

司会 笹栗俊之(九州大学)

14:30-17:00 企画シンポジウムI(D会場で同時中継)

SS1 戦争と研究倫理

オーガナイザー：大林雅之(東洋英和女学院大学)

笹栗俊之(九州大学)

SS1-1 戦時下における医学研究倫理 —戦争は倫理を転倒させるのか—

土屋貴志(大阪市立大学)

SS1-2 原爆と科学者の倫理

藤永 茂(アルバータ大学名誉教授)

B会場（中ホール1）

9:10-10:30 一般演題（口演） 終末期医療1 座長：二ノ坂保喜（このさかクリニック）

9:10- 9:30

O-1 終末期医療の意義
浅野 章（日本大学）

9:30- 9:50

O-2 意識障害は終末期なのか？ —その見解を支えるニヒリズムの分析—
戸田聡一郎（山梨大学）

9:50-10:10

O-3 生命終焉の二様性の対立 —消極的安楽死と尊厳死、そしてICとLW—
荒川迪生（日本尊厳死協会）

10:10-10:30

O-4 介護施設利用に到るプロセスへの一考察 —認知症高齢者と娘の関係性の視点から—
横瀬利枝子（早稲田大学）

10:50-12:10 一般演題（口演） 終末期医療2 座長：波多江伸子（倫理学研究者）

10:50-11:10

O-5 施設での看取りをめぐる問題
福間誠之（洛和ヴィラ桃山）

11:10-11:30

O-6 救命救急センターにおけるDNAR指示後の治療選択に関する調査
金川里佳（東京大学）

11:30-11:50

O-7 脳死患者における人工呼吸器の中止：救急医に対する質的研究
会田薫子（東京大学）

11:50-12:10

O-8 日本救急医学会・終末期ガイドラインを受けての延命措置中止・差控えに関する意識調査
門岡康弘（熊本大学）

C会場（中ホール2）

9:10-10:30 一般演題（口演） 尊厳・人権1 座長：中山茂樹（京都産業大学）

9:10- 9:30

O-9 「人間の尊厳」「生命の尊厳」「人間の生命の尊厳」 —多様に語られる「尊さ」—
岩倉孝明（川崎市立看護短期大学）

9:30- 9:50

O-10 人権と公共の福祉 —「個人の尊重」の射程—
堂囿俊彦（東京大学）

9:50-10:10

O-11 生と死の操作に対する倫理的見識から見る大学生と教員の持つ死生観の対比による検討
平 龍太郎（早稲田大学）

10:10-10:30

O-12 臨床共生学 —死生論の視点から—
松岡聡明（医療法人創建会）

- 10:50-12:10 一般演題（口演） 尊厳・人権2 座長：秋葉悦子（富山大学）**
- 10:50-11:10
O-13 「人体の不思議展」の倫理的問題点について
末永恵子（福島県立医科大学）
- 11:10-11:30
O-14 フランス生命倫理における人間の尊厳と社会的連帯性
小出泰士（芝浦工業大学）
- 11:30-11:50
O-15 日本の小児医療における Informed Assent の課題
—国連(CRC)「乳幼児の権利」との関係を中心に—
山本智子（秋草学園短期大学・早稲田大学）
- 11:50-12:10
O-16 大学生の生命倫理観 —環境が暴力的コミュニケーションの容認に与える影響—
荳司佳美（早稲田大学）

D会場（中ホール3）

- 9:10-10:30 一般演題（口演） 先端医療と倫理 座長：武藤香織（東京大学医科学研究所）**
- 9:10- 9:30
O-17 倫理学と最先端医科学との対話
松岡亜継子（医療法人創建会）
- 9:30- 9:50
O-18 長寿エンハンスメントをめぐる近年の医療倫理学上の論争状況についての検討
伊吹友秀（東京大学）
- 9:50-10:10
O-19 iPS 細胞研究をめぐる倫理的諸問題
中澤 務（関西大学）
- 10:10-10:30
O-20 iPS 細胞の研究と利用における倫理的課題
位田隆一（京都大学）
- 10:50-12:10 一般演題（口演） 臨床研究と倫理 座長：藤野昭宏（産業医科大学）**
- 10:50-11:10
O-21 人を対象にした研究行為の倫理性とは何か
桑子敏雄（東京工業大学）
- 11:10-11:30
O-22 研究倫理審査委員会の現状と改善策の提案
—審査過程調査及び委員、申請者の意識調査—
鈴木美香（理化学研究所・京都大学）
- 11:30-11:50
O-23 研究の質の向上とリスク管理を目的としたマネジメントシステムの必要性
佐藤恵子（京都大学）
- 11:50-12:10
O-24 ファーマコゲノミクスの利用に際して考慮すべき倫理的論点
丸 祐一（千葉大学医学部附属病院）

11月30日(日)

A会場(大ホール)

9:00-10:30 公募シンポジウム3

S3 破棄されるヘルシンキ宣言・先端医療への患者アクセス権

オーガナイザー：栗原千絵子(放射線医学総合研究所)

S3-1 破棄されるヘルシンキ宣言・先端医療への患者アクセス権

栗原千絵子(放射線医学総合研究所)

S3-2 研究対象者保護法試案・その後

光石忠敬(光石法律特許事務所)

S3-3 臨床試験の質の確保と被験者の保護 —第I相試験の現場から—

飯島 肇(北里大学臨床薬理研究所)

S3-4 立法府における患者・被験者保護法制に向けた議論

—ドラッグラグ問題と薬害問題を結ぶもの—

川田龍平(参議院議員)

S3-5 「臨床研究基本法」の提言

—被験者保護・先進的医療へのアクセス・臨床研究者育成の向上に向けて—

中野重行(大分大学・国際医療福祉大学)

10:40-11:40 会長講演

L2 臨床研究の倫理 笹栗俊之(九州大学)

司会：谷 憲三朗(九州大学)

12:30-13:20 総会

13:20-15:20 企画シンポジウムII

SS2 研究者の責任ある行動 —利益相反問題を踏まえて—

オーガナイザー：鈴木利廣(明治大学法科大学院・弁護士)

SS2-1 研究者倫理の現状と課題

山崎茂明(愛知淑徳大学)

SS2-2 日本の医療現場と研究者倫理

谷田憲俊(山口大学)

SS2-3 日本の医薬品評価と利益相反 —現状と課題—

水口真寿美(薬害オンブズパーソン会議)

15:30-17:00 公募シンポジウム4

S4 よく死ぬことについて —終末期医療における倫理的課題—

オーガナイザー：浅田淳一(筑紫女学園大学)

S4-1 限定的な死の自己決定権擁護のために —生の完成という観点から—

新名隆志(九州大学)

S4-2 ホスピスの倫理的意義 —安楽死との対比を通じて—

林 大悟(九州大学)

S4-3 医学医療に何ができるのか? —終末期医療に即して—

石橋孝明(純真短期大学)

S4-4 医学医療は科学技術か?

篠原駿一郎(長崎大学)

B会場（中ホール1）

9:00-10:30 公募シンポジウム 5

S5 看護職の自律とジレンマ

オーガナイザー：佐伯恭子（首都大学東京）

S5-1 看護師のジレンマと倫理的悩み

大西香代子（三重大学）

S5-2 看護職の専門性と医療行為；訪問看護師の裁量権を巡って

岩本テルヨ（山口県立大学）

S5-3 プラシーボ治療と看護師の意識

田中美穂（東邦大学）

13:20-14:50 公募シンポジウム 6

S6 ヨーロッパにおける脳神経倫理

—精神疾患治療における脳深部刺激の問題を例に—

オーガナイザー：虫明 茂（就実大学）

玉井真理子（信州大学）

S6-1 ドイツにおける脳神経倫理

原 壘（東京大学・科学技術振興機構 社会技術研究開発センター）

S6-2 脳深部刺激療法の現状と今後の課題

深谷 親（日本大学）

S6-3 DBSをめぐる各国事情 —ドイツとフランスを軸に—

高木美也子（日本大学）

S6-4 DBS 研究開発の将来展望

福士珠美（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター）

15:30-17:00 公募シンポジウム 7

S7 生命倫理の自己認識と可能性 —メタ・バイオエシックスの視点から

オーガナイザー：香川知晶（山梨大学）

S7-1 生命倫理と医療倫理との統合の挫折

廣野喜幸（東京大学）

S7-2 米国バイオエシストの歴史認識 —米国生命倫理学会アンケート調査を踏まえて—

皆吉淳平（芝浦工業大学）

S7-3 バイオエシックスと「生命」の概念的射場

瑞樹（早稲田大学）

C会場（中ホール2）

9:00-10:20 一般演題（口演） 社会と倫理1 座長：霜田 求（大阪大学）

9:00- 9:20

O-25 補完代替医療への倫理的アプローチに関する一考察

村岡 潔（佛教大学）

9:20- 9:40

O-26 HIV 感染症予防活動とその倫理的な問題

大北全俊（大阪大学）

9:40-10:00

O-27 医療パフォーマンス評価と QOL 研究についての一考察

谷口泰弘（岐阜大学）

10:00-10:20

O-28 Neuroethics は必要か？

木暮信一（創価大学）

13:20-14:50 公募シンポジウム 8

S8 我が国における病院倫理委員会の現状と展望

オーガナイザー：浅井 篤（熊本大学）

S8-1 病院倫理委員会の実践：我が国における先駆的試み

一般病院における倫理コンサルテーションの現状と問題点

三浦靖彦（野村病院）

S8-2 「委員会による倫理」に関する哲学的倫理的考察

高橋隆雄（熊本大学）

S8-3 病院倫理委員会の世界の現状と現場のニーズ

瀧本禎之（東京大学医学部附属病院）

S8-4 我が国の医療現場における倫理支援体制の可能性

長尾式子（東京大学）

15:30-17:00 公募シンポジウム 9

S9 MEDINT：機微な医学情報と生命倫理・研究の自由

オーガナイザー：齊尾武郎（フジ虎ノ門健康増進センター）

S9-1 医学情報の公開への要請と医療技術の軍事転用問題の現状

鎌田 泉（三宿病院薬局）

S9-2 機微で秘匿された医学情報(MEDINT)の研究・開示は憲法学上どのように根拠づけられるべきか

城野一憲（早稲田大学）

S9-3 学術共同体において公表されない製薬研究

松本一彦（鳥居薬品）

S9-4 医学・医療領域への市場システムの過度の介入がもたらす功罪とその対応

浅野茂隆（早稲田大学）

D会場（中ホール3）

- 9:00-10:20 一般演題（口演） 社会と倫理2 座長：宮脇美保子（順天堂大学）**
- 9:00- 9:20
O-29 要介護者と家族介護者の生活と生命の保証 —介護支援専門委員制度の問題点—
根本治子（花園大学）
- 9:20- 9:40
O-30 拒否的／消極的利用者への支援
—ソーシャルワークにおけるナラティブ・アプローチによる介入—
荒井浩道（駒澤大学）
- 9:40-10:00
O-31 保健専門職者に対する暴力対策の課題（イギリスの暴力対策より）
柳井圭子（産業医科大学）
- 10:00-10:20
O-32 人手不足による看護師の葛藤と意思決定
藤田佳代子（産業医科大学・熊本大学）
-
- 13:20-15:20 一般演題（口演） 宗教と倫理 座長：今岡達雄（浄土宗総合研究所）**
- 13:20-13:40
O-33 「宗教と生命倫理」をめぐる語り
安藤泰至（鳥取大学）
- 13:40-14:00
O-34 古代日本の死生観から見る生命という価値
西田晃一（熊本大学）
- 14:00-14:20
O-35 「いのちは誰のものか」という問い
紫 英人（真宗大谷派円立寺・福井病院）
- 14:20-14:40
O-36 「苦しみ」・「救済」という観点からの生命倫理についての一考察
山本栄美子（東京大学）
- 14:40-15:00
O-37 生命倫理と宗教倫理 —生者と死者の共生—
平田俊博（山形大学）
- 15:00-15:20
O-38 エホバの証人の輸血拒否と患者の自己決定権
有賀友則（エホバの証人の医療機関情報デスク）
-
- 15:30-17:10 一般演題（口演） 周産期医療と倫理 座長：加未恒壽（九州大学）**
- 15:30-15:50
O-39 生殖医療領域カウンセリングにおけるカウンセラーとクライアントの倫理的相反
佐藤孝道（聖路加国際病院）
- 15:50-16:10
O-40 出生前診断と助産師活動における現状と課題 —ジェンダーバイアスを超えて—
山本由美子（立命館大学）
- 16:10-16:30
O-41 障害者観および出生前診断に関する意識の国際比較
巽 純子（近畿大学）
- 16:30-16:50
O-42 誰が ART を利用できるか ～家族の形の多様化の可能性
遠矢和希（大阪大学）
- 16:50-17:10
O-43 日本における受精卵診断のパラダイム転換に関する検討
利光恵子（立命館大学）

ロビー

- 13:20-14:00 一般演題（ポスター発表） 生命倫理と教育1**
座長：吉田素文（九州大学）
白浜雅司（佐賀市立三瀬村国民健康保険診療所・佐賀大学）
- 13:20-13:29
P-1 高校生物で脳死をどう教えるか ～生物学的正しさを超えて
白石直樹（東京都立墨田川高等学校）
- 13:30-13:39
P-2 医療倫理学をめぐる学生の3つの誤解
阿部紀絵（群馬大学）
- 13:40-13:49
P-3 医療専門職を目指す学生の職業訓練の一環としての、生命倫理教育の在り方
藤井 可（熊本大学）
- 13:50-13:59
P-4 医学部カリキュラムにおける医療倫理教育の現状 ―全国アンケート調査報告
板井孝彦郎（宮崎大学）
- 14:10-14:40 一般演題（ポスター発表） 生命倫理と教育2**
座長：吉田素文（九州大学）
白浜雅司（佐賀市立三瀬村国民健康保険診療所・佐賀大学）
- 14:10-14:19
P-5 生命倫理教育の基本ツールとしての「WMA 医の倫理マニュアル」
宮島光志（福井大学）
- 14:20-14:29
P-6 医療倫理学ケースの物語論
服部健司（群馬大学）
- 14:30-14:39
P-7 薬剤師の社会的位置づけの変化と職業倫理教育への取り組み
川村和美（静岡大学）
- 14:50-15:20 一般演題（ポスター発表） 生命倫理と教育3**
座長：吉田素文（九州大学）
白浜雅司（佐賀市立三瀬村国民健康保険診療所・佐賀大学）
- 14:50-14:59
P-8 倫理委員の研修に関する考察：米国での研修コースに参加して
蒲生 忍（杏林大学）
- 15:00-15:09
P-9 日本における生命・医療倫理教育の可能性
―米国の経験を踏まえた新たな展開を目指して―
丸山マサ美（九州大学）
- 15:10-15:19
P-10 学生・臨床従事者への倫理教育実施の視点
稲葉一人（中京大学）